

# 第5回腫瘍病理セミナー

北陸がんプロFD講演会

難治腫瘍、血管制御、そしてナノ薬剤  
～なぜ難治腫瘍は難治なのか～

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科（薬学系）  
医薬品臨床評価学分野 教授

狩野光伸



狩野先生は、東京大学医学部を1995年に卒業、聖路加国際病院 内科系レジデントとして臨床トレーニングを受けた後、東大・分子病理学（宮園浩平教授）の元で、TGF $\beta$ の研究に携わってきました。そのなかでも、TGF $\beta$ 阻害剤が全身の血管のうち癌新生血管でのみ、血管内皮を増加させ、かつ、壁細胞を減少させる、つまり癌新生血管の漏出性を増加させることを見出しました。さらにこの知見を、同薬剤のナノ抗がん剤との併用に応用し、これまでに治療効果が見られなかった難治癌である膵癌・スキルス胃癌の動物モデルで、大きな治療効果をもたらすことを示しました（PNAS, 2007）。

2012年7月より現所属で独立して研究を続けていらっしゃいます。

東大時代には、医学部 MD 研究者育成プログラムにも参画され、また最近では、日本学術会議の若手アカデミー委員会副委員長を務めるなど、最近の政策決定や医学教育についても積極的に関わっておられます。それについてもお話し頂く予定です。

日時：1月21日（月） 17時から  
金沢医科大学病院  
新館 12F 特別会議室

主催：病理学 I 清川 内線 3611